

実践の様子

「モルハウス」づくり

安全に作業できるように、テーブルや扱う道具等は十分に余裕をもたせて配置しました。小さな道具まで毎回同じ配置になるように注意し、視覚障害の児童が場所を覚えて自分で作業できるようにしました。(①～④は作業の順番。)

④組立

②やすりがけ



③部品作り

①木材の切り分け

①木材の切り分け（のこぎり係）



視覚に障害のある児童でも安全に作業できるように、比較的扱いやすい「マイターソー」を使いました。

木材を一人で切るのは大変そうでしたが、完全に切断してのこぎりを引く感触が変わると、表情が変わり「切れた」ことが実感できている様子が見てとれました。

②やすりがけ（やすり係）



③部品作り（部品係）



切り分けた木材の側面に木工用接着材を塗り、木材同士を貼り合わせて「モルハウス」の「壁」になる部分を作りました。

高さや幅を揃えて貼り合わせる作業は、視覚障害の児童にとって難しい作業の一つです。補助具を用意するとともに、正確に作業ができるよう、一度に貼り合わせる木材の数は3つとしました。



高さを揃えて木材を並べるための道具

児童の作業の様子を見ながら、必要と思われる補助具をいくつか用意しました。いろいろ試してみましたが最終的に上の道具を使い、高さを揃えて貼り合わせるできるようになりました。



木材を真直ぐに並べるための道具



木材の幅を揃えて貼り合わせる道具



隙間に木工用接着剤を塗った木材をはめ込み貼り合わせる道具

④部品の組立（組立係）

弱視の児童には、手順表を用意し、木工用接着剤を貼る部分が分かりやすいよう、木材に児童の見やすい色で目印を付けました。

その日の作業終了時に、組立てた「壁」の先端にビーズを貼り、作業の進み具合が触って確認できるようにしました。



モルモットをむかえよう



動物公園の飼育員さんに、モルモットが安心できる環境を教えてくださいに行きました。「モルハウス」の床には、飼育員さんに教わったモルモットの大好きなおがくずと干し草を混ぜた「おふとん」を敷きました。

余った木材を使って作った「おもちゃ」も、「モルハウス」に入れてみました。

移動動物園



プログラム

- ◎モルモットと飼育員さんの入場
- ◎モルモットの観察
- ◎飼育員さんのお話
- ◎モルモットへのえさやり
- ◎モルモットをだっこしよう
- ◎飼育員さんへの質問



動物公園への見学から、学校にモルモットを迎えて自分たちで世話をすることにつなげた本单元では、実際の生活に結び付いた活動となるように、学校でモルモットの世話をすることについて校長先生に許可を得たり、モルモットの生態について飼育員さんに聞いたりするところから、児童と一緒に行いました。

移動動物園当日、モルモットを迎えた児童の表情は、本当にキラキラとしていて自分から進んで世話をしようとして一生懸命でした。

授業を参観した保護者から「子どもの表情がいつもと違ってびっくりしました」という感想をいただき、中には児童の姿に涙する保護者も見られました。

児童にとっても教員にとっても、「できた」という実感を味わうことができた单元となりました。



実践例3 「ヤギさんのかくれんぼ」

絵本「オオカミと七匹の子ヤギ」を題材とした、劇遊びや表現遊びの単元です。

- ◆ 学校・学部 知的障害特別支援学校 小学部2年 28名
- ◆ 活動の期間 10月第1週～10月第4週（4週間）
- ◆ 指導時数 18単位時間

単元の構想



小学部2年生では、10月の第4週に、学年の保護者会を行うことにしています。この日を授業参観日とし、児童が生き生きと学習に取り組む姿を保護者の方にも見ていただきたいと考えて単元を計画しました。

1年生のときに、絵本の読み聞かせから始まった劇遊びでは、児童がとても楽しそうに取り組んでいた。児童の大好きな「劇遊び」をテーマとしたらどうか。



1年生のときよりも「できること」は増えている。大道具・小道具づくりや効果音など、「劇をつくる」ところから、児童と一緒にできるとよい。

劇のストーリーや登場人物のイメージなどを共有できるように、ICT機器を効果的に活用した読み聞かせをしよう。



着替えも、自分でできるように、衣装の形を工夫しよう。いつもスモッグや体操着に着替えるときのような環境を用意しよう。

「発表のための劇」ではなく、一人一人が楽しみながら進んで表現できるような劇にしたい。そのためには、児童の「できること」「分かること」で構成することが必要だ。



- 学年の全担任が協力し、児童の「できること」を生かした展開を工夫する。
- どの児童も楽しめる劇づくりを行う。

児童の「できること」(学習してきたこと)を生かした劇づくり

これまで、授業で学習してきた内容から単元づくり（劇づくり）を行うことにしました。

生活単元学習	遊びの指導	音楽	体育
「おさかな だ～いすき」(劇ごっこ)	「ペンギンになろう」(絵本の読み聞かせ)	歌 タンバリンの演奏 など	ダンス 「歩く」「走る」などを組み合わせたリトミック的運動 など
「カメさんのママさがし」(ストーリーのある校内探検)	「忍者のかくれんぼ」(ダンス、かくれんぼ遊び)		

劇 「オオカミと七匹の子ヤギ」

児童と教員の活動

場面①

お母さんヤギが出かけて、子ヤギだけになった家にオオカミがやってくる。



<子ヤギ役> (児童)
(リズム打ち)
♪「だめだめ**
だめだめ**
だめだーよ*」

<オオカミ役> (教員)
ドアを叩いて
「お母さんだよ、開けておくれ。」



場面②

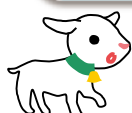
お母さんヤギのふりをしたオオカミを家の中に入れてしまった子ヤギたちが、あちこちにかくれる。

<子ヤギ役>
大道具のドアやテーブルの下に隠れる。
「まあだよ。」

<オオカミ役>
「もういいかい。」

場面③

オオカミが昼寝をしている間に、戻ってきたお母さんヤギが捕えられた子ヤギたちを助け出す。目を覚ましたオオカミが追いかけてくる。



<子ヤギ役>
「しまった！」

<オオカミ役>
「みつけた。」

場面④

池に落ちたオオカミをつかまえる。反省したオオカミと仲直りし、みんなでダンスをする。

<子ヤギ役>
池の周りを走る。合図を聞いて反対周り。曲が変わったらその場で回る。
バルーンをかぶせてオオカミをつかまえる。

<オオカミ>
「まてまてー！」

* 教員集団の役割分担を明確にし、互いの意見やアイデアを積極的に出し合えるようにしました。

- 読み聞かせのストーリー作り
- 衣装担当
- 電子紙しばい作成
- 大道具制作
- 招待状作成担当

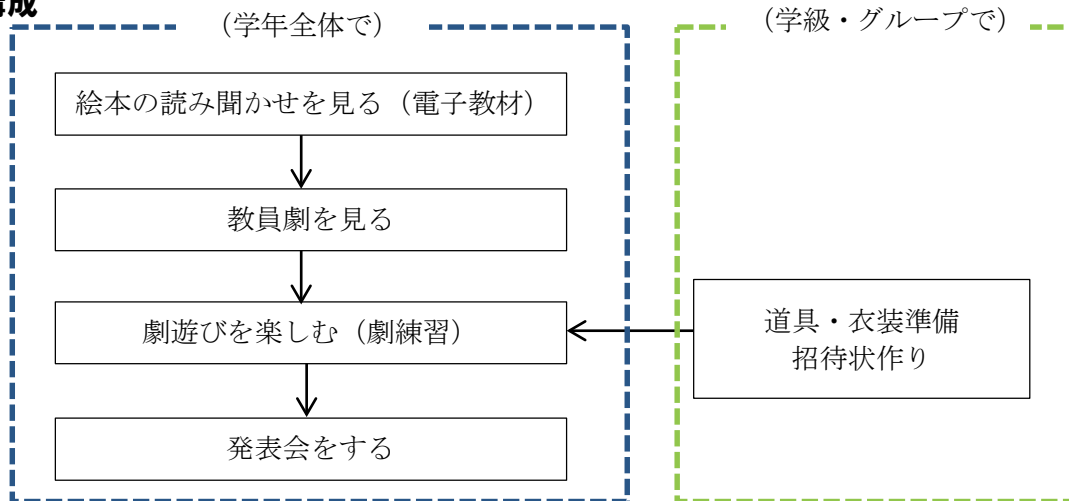
- 記録
- キャスト (オオカミ役、お母さんヤギ役)
- 道具の出し入れ
- 児童の支援

単元指導計画

単元の目標

- ・ 「ヤギさんのかくれんぼ」の劇遊びを楽しみにし、進んで活動に取り組む。
- ・ 好きな場面や得意な動作、表現などを自信をもって演じる。

単元の構成



指導計画(全18単位時間)

小単元とねらい	時数	授業形態と主な学習活動
「どんなお話かな？」 読み聞かせや教員による劇を見て、お話に興味をもったり、展開に期待感をもったりする。	4	【学年で】 ・ 教員の読み聞かせを見る。 ・ 教員の劇を見る。 ・ かくれんぼの場面など、部分的に劇に参加して楽しむ。
「ヤギさんになってみよう！」 劇のストーリーへの理解を図り、意欲的に演じる。劇ごっこへの関心を高める。	4	【学年で】 ・ 場面を選んで劇遊びをする。 ・ 教員と一緒に通し練習をする。 【各学級で】 ・ 衣装飾り・道具作りなど 【グループに分かれて】 ・ 衣装の模様付け
「ヤギさんになって楽しもう」 演じることの楽しさを味わう。	5	【各学級で】 ・ 小道具作り 【学年で】 ・ ダンス練習、合奏練習 ・ 児童劇（通し練習）
「お父さん・お母さん 見に来てね！」 活動の流れに見通しをもち、各場面の活動で力を発揮する。	4	【各学級で】 ・ 招待状作り 【学年で】 ・ 児童劇（通し練習） ・ 劇発表会
「楽しかったね！」 ヤギさんのかくれんぼ」 劇ごっこを振り返る。	1	【学年で】 ・ 各グループのビデオ鑑賞

劇の練習は学年全体で行う。道具作り等は、学級・グループに分かれて各教室で行う。

招待状作り：台紙に「絵カード」と「自分の写真」を貼る。各教室で活動する。

保護者参観日

実践 ～練習の様子～



【準備】

単元への意欲や期待感を高めるために、活動の準備も授業の時間として位置付けました。

衣装に着替える時は、日常の着替えの手順と同様、かごやロッカーを使い、自分で用意することができるようにしました。ベストには自分で模様を付け、愛着をもって着ることができるようになりました。



【場面①】

オオカミ役の教員の「お母さんだよ、開けておくれ」のセリフに、子ヤギ役の児童が歌とタンバリンで応えます。楽器を、音楽の時間に取り組んだタンバリンに変更したことで、自分で演奏できる児童が増えました。



【場面②】

オオカミと子ヤギの「かくれんぼ」では、遊びの指導の時間や休み時間に行った「もういいかい」「まあだよ」の掛け合いを再現しました。「かくれんぼ」は、児童の大好きな場面となりました。



【場面③】

オオカミと子ヤギの「追いかっこ」です。体育の時間に取り組んだ周回走、リズム体操を取り入れました。体育の授業で行っている動作なので、特別な練習をしなくてもすぐできるようになりました。



【場面④】

オオカミを捕まえる場面は、1年生の時から経験しているバルーンを使って表現しました。

最後のダンスも、音楽や体育、遊びの指導で取り組んだ動作を組み合わせ構成しました。

